

のために受忍すべき社会的要請に基づくものであると理解いただきたい。



奈良橿原線

市制60周年

問 橿原市は昭和31年、市制施行され、人口が3万8,539人、奈良県で5番目の市として誕生し、現在12万5千人、県下2番の市である。来年は市制60周年で、この60年で本市は大きく発展してきた。3大事業のごみ焼却処理施設更新事業、し尿処理施設整備事業、八木駅前南整備事業は完成した。また、森下市長の新3大事業で、八木駅周辺整備事業、庁舎整備、医大周辺整備が計画されている。

本市は中南和の玄関口としてますます重要な立場に立つと思う。市制60周年には、どういった行事、事業を考えているのか。

答 記念式典に関しては、平成28年2月11日が本来の記念日だが、建国記念日となるため、橿原神宮で催される紀元祭と重なるため、2月13日(土)、または翌14日(日)に開催したいと考えている。式典内容は、橿原市制60周年記念事業推進委員会において検討中である。記念式典以外の記念行事、事業は、平成26年に中堅職員で構成された市制60周年記念事業検討プロジェクトチームにより、イベント等の検討を行っている。記念事業は、28年1月から12月までで、予算は、28年1月から3月末まで、市制60周年記念事業費として約820万円の27年度予算を承認いただいた。なお、記念事業は、市制50周年と比較して、余り華美にはならないように考えている。

問 市制60周年を前に、市長の任期は27年11月11日である。選挙管理委員会によると10月25日が市長選投票日となるようだが、市長は3期目を

目指して立候補するのか。立候補するのであれば、これからの本市についてどのようなビジョンを持っているのか。また、8年間を振り返り、自己採点をすれば何点か。

答 1期目は、引き継ぎの事業の整理整頓がほとんどであり、2期目になりようやくいろいろな事業に着手できた。昨年5月に地域活性化モデル事業において内閣府と手を結ぶことができ、今年3月に奈良県と、6月には医大との協定を結んだ。これでいよいよ形が整い、これをもとによりやくスタートが切れると思う。この8年間でいろいろなものを積み上げてきたことで、今の環境が整ったと思うので、どうかスタートを切らせていただきたい。また、今のこの環境を2期目の終わりになって整えられたことには、100点満点をつけたと思う。

一般質問

西川正克
(日本共産党)

中学校教科書採択

問 今年は、来年度から使用する中学校教科書の採択の年である。4月に中学校教科書の検定結果が発表されたが、今回の検定は、教科書に政府の意向に沿った記述を求めるなど、検定基準が重大な変更、改悪されたもで行われ、検定に合格した中には、現行の日本国憲法を敵視し、改憲への誘導、侵略戦争を美化、正当化している歴史・公民教科書も含まれている。2013年の国連総会の特別報告には「教科書の選択は特定のイデオロギーや政治的な必要性に基づくべきではない。」等の指摘がある。これが国際社会の常識であり、こうした観点から教科書を選ばすべきである。子どもが学びやすく、先生が教えやすい教科書を選ばすべきと思うが考えは。

答 教科書選定は、文部科学省の検定に合格した全ての中から採択する。教科書決定には、適正かつ公平に行うため、県が示す採択基準に則り、強化の目標や内容、生徒や地域

の実情等を考慮し公正中立の精神で最も適切なものを採択したい。

問 子どもと日々深くかわり、地域や子どもの状況をよく把握しているのは先生方である。教科書の採択には、現場の先生の意見を尊重することが望ましいと思うが。

答 選定委員会は、教育委員会の規則により、教育委員会事務局職員と校長・教頭で組織し、その下に、教育実践経験豊かな現場の先生による調査研究部会を設置している。専門的に調査研究をしてもらい、その結果を十分に尊重した答申を行いたい。

問 先生方が十分な時間的保障のもとに教科書の調査研究ができるようにすることが望ましいと思うが。

答 日々忙しく子どもたちにかかわっている先生方ではあるが、教科書採択は、教育の根幹にかかわることであり、十分時間をとり検討するよう指導している。

問 教科書選定委員を住民から公募したり、教科書展示会にアンケート用紙を置くなど、市民の意見を集約し、尊重する体制を整えるのが望